



(1) 単元の展開について

図2は、研究協力校の器械運動領域の年間配当時間数である。その1学期の6時間を検証授業として活用した。

(図2) 年間配当時間数 (時数)

一学期	<ul style="list-style-type: none"> マット運動 (3時間) 跳び箱運動 (3時間) 	6	〈検証授業〉
二学期	<ul style="list-style-type: none"> 鉄棒運動 (5時間) 		
三学期	<ul style="list-style-type: none"> マット運動 (3時間) 跳び箱運動 (2時間) 	5	
単元総時数		16時間	

単元の構想としては、1・2時間目は、マット運動と跳び箱運動のそれぞれの既習の技の復習と1学期の単元で新しく学習する技の練習をさせる。3・4時間目は、今回の単元で学習する技を中心にしたコース別学習により、技能の到達度と意欲に応じた課題を持って練習させる。5・6時間目は、これまでに学習したものの中から、自己の技能に応じた技を選択し、独創性のある連続技で表現させる。

この実践の単元指導計画と具体的な手だてについては、図3、図4の通りである。

(図3) [マット運動-とび箱運動の単元指導計画]

- (単元目標)
- 技能の内容
 - 自分の能力に適した課題を設定して次の運動や活動を行い、その技ができるようにする。
 - ア マット運動で技を繰り返したり、組み合わせたりする。
 - イ 跳び箱運動で支持跳び越しをする。
 - ウ マット運動と跳び箱運動の技を組み合わせ創作活動をする。
 - 態度の内容
 - 互いに励まし合って運動ができるようにする。
 - 器械・器具の使用の仕方を工夫して、安全に運動ができるようにする。
 - 自分や友達の「よさ」を見つけることができるようにする。

(指導計画)

時 限	目 標	主な学習内容・活動	基 礎・基 本	個 性	評 価 等
1 課題把握	この単元で学習する技を練習した動きを慣れさせる。	1. 既習運動の復習をする。 2. 新しい技の練習をする。 3. 繰り返し技の練習をする。	自己の能力に適した課題を持つことができる。 技の繰り返しをする、つなぎをスムーズに行うことができる。	がんばろうとする 協力し合うとする 正しく行おうとする 安全に気を付けようとする 「よさ」を認め合うとする	相互観察による相互評価 学習カードによる自己評価
2 問題解決	新しい技を練習し、次のつなぎを持つたせ。	1. 既習運動の復習をする。 2. 新しい技の練習をする。 3. 連続技の練習をする。	ジェクタビリティ 技の身体的表現(表現力) 課題や技についての適切な評価(判断力)		個人カルテによる得意面の自己評価
3 学習内容の理解	自分のめざす課題を解決させるために練習させる。	1. スムーズにできるようになったら別のコースに移る。 2. 発表するコースを決定し練習する。 3. 班内で発表する。	自己の能力に適した課題を持つことができる。 足差やジャンプにより技をつなげることができる。	できるようになるように挑戦する 互いに助け合おうとする できないところを習おうとする 教えるようにする 丁寧に仕上げようとする 安全に気を付けようとする 「よさ」を認め合うとする	相互観察による相互評価 学習カードによる自己評価 相互評価
4 定 着	自己のめざす課題を解決させるために練習させる。	1. 独創性のある連続技を創作し練習させる。 2. 協力して練習する。	自己の能力に適した課題を持つことができる。 足差やジャンプにより技をつなげることができる。	できるようになるように挑戦する 互いに助け合おうとする できないところを習おうとする 安全に気を付けようとする 「よさ」を認め合うとする	相互観察による相互評価 学習カードによる自己評価 相互評価
5 展 開	自己のめざす課題を解決させるために練習させる。	1. 独創性のある連続技を創作し練習させる。 2. 協力して練習する。	自己の能力に適した課題を持つことができる。 足差やジャンプにより技をつなげることができる。	できるようになるように挑戦する 互いに助け合おうとする できないところを習おうとする 安全に気を付けようとする 「よさ」を認め合うとする	相互観察による相互評価 学習カードによる自己評価 相互評価
6 展 開	自己のめざす課題を解決させるために練習させる。	1. 独創性のある連続技を創作し練習させる。 2. 協力して練習する。 3. 班代表を決める。 4. 全員で代表の発表をみる。	自己の能力に適した課題を持つことができる。 足差やジャンプにより技をつなげることができる。	できるようになるように挑戦する 互いに助け合おうとする できないところを習おうとする 安全に気を付けようとする 「よさ」を認め合うとする	相互観察による相互評価 学習カードによる自己評価 相互評価